

新電力業界の
未来視レポート
Tele-Gnosis 2022

ご紹介資料
株式会社AnPreenergy



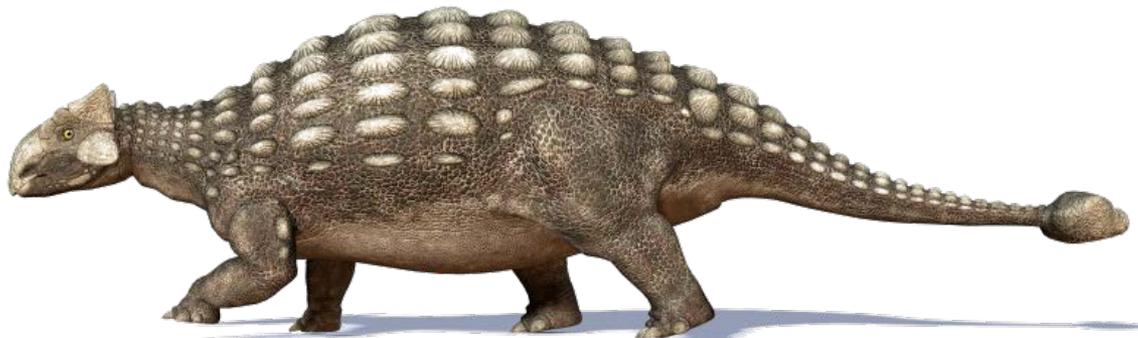
Tele-Gnosis

新電力業界の未来視レポート 2022-

大手電力/新電力企業分析
2021年競争環境 考察
新規参入企業の動向
電力市場(JEPXスポット)市況
誌上講義「最新制度の解説」
電力ビジネスコンサルコラム ほか

レポート刊行の「ご挨拶」

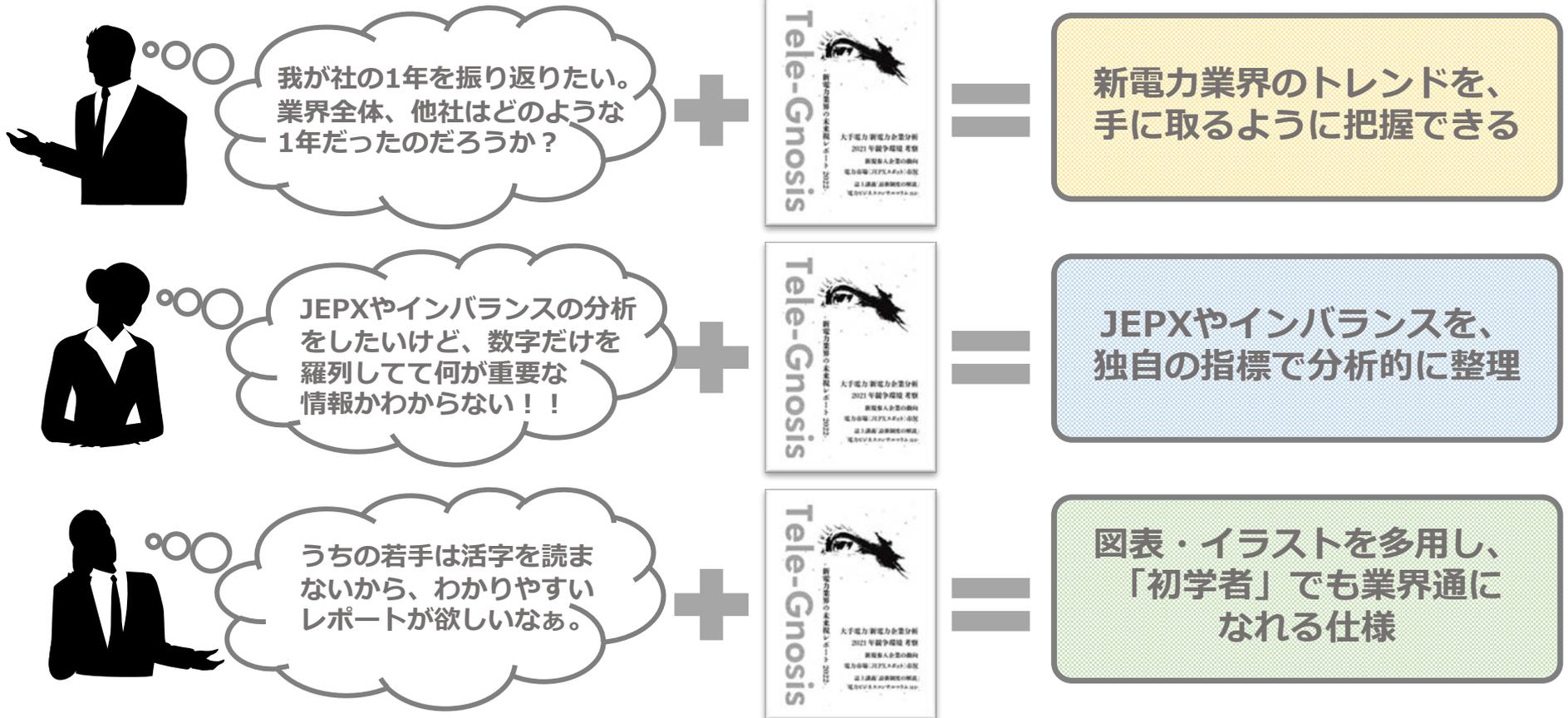
- 電力全面自由化から6年が経過しました。新電力事業者の認知の高まりは、10年前からすれば「隔世の感」があります。
- 2011年の東日本大震災の日、私は需給管理オペレーションをしていました。その後、FIT制度を背景にした太陽光バブル、電力全面自由化、そしてJEPXの大高騰など、業界の過渡期ゆえのイベントと共に過ごしてきた期間は、しかし、わずか10年ばかり。まだまだ半人前の立場です。
- 本レポートは、その未熟な立場の私からの新電力業界考察です。そのため「既に知見も経験も十分だから情報収集も分析も、まして他人の手など借りない」という企業様は読者対象としておりません。むしろ、新規参入から間もなく（5年くらい）分析に手が回らず専門人材もいない、という企業様が読者対象です。
- なお、下の恐竜は「アンキロサウルス」という白亜紀の恐竜です。強固な鎧で身を固め、強力な尻尾はティラノサウルスの足を砕くことができました。ティラノサウルスは、総力を挙げればアンキロサウルスを倒すことは可能だったはずですが、怪我をしかねない相手を襲うことに意味を見出さず共存しました。
- 大手電力会社をティラノサウルス(Predator) とする場合、アンキロサウルスのような生き方を恐竜界では「Anti-Predator」といいます。私は本レポートを「Anti-Predator」の精神で書き上げました。大手電力を「親の仇」のように捉えるのではなく、日本のエネルギー諸問題の解決に向けて「共闘」を目指す事業者様のための知識、情報の整理箱として活用していただけたら望外の喜びです。



株式会社AnPreenergy
代表取締役 村谷 敬

Tele-Gnosisの想定読者層

- ✓ Tele-Gnosisは、新電力業界に関わる方、参入を考える方、出資・融資・投資判断を考える方などを対象に、業界の動向、トレンドを「多角的・客観的・未来視的」に解説します。



初学者歓迎の「安心設計」で読みやすく分かりやすい

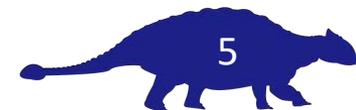


調査要領	5
1章 2021年 新電力業界の競争環境考察	6
1) 2021年競争環境考察と考察ポイント	6
2) 2021年月間業界ニュース	12
2章 2021年 新電力事業者の分析	50
1) 新電力事業者分析のポイント	51
2) エリア別スイッチング状況 (2021年9月末時点)	55
3) 年間販売電力量ランキング (2020年10月～2021年9月末)	57
4) 販売電力量20位までの新電力事業者分析 (大手電力の子会社を除いた新電力)	58
1. エネット	59
2. 東京ガス	65
3. ENEOS	71
4. 大阪瓦斯	77
5. SBパワー	83
6. KDDI	89
7. F-Power	95
8. 出光興産	101
9. 丸紅新電力	107
10. エナリス・パワー・マーケティング	113
11. エバークリーン・マーケティング	119
12. ハルエネ	125
13. ホープ	131
14. 大和ハウス工業	137
15. ミツウロコグリーンエネルギー	143
16. オリックス	149
17. 日本テクノ	155
18. 東邦ガス	161
19. 楽天エナジー	167
20. ウエスト電力	173

Tele-Gnosis2022 目次紹介 2/2

3章 大手電力事業者の分析	174
1) 大手電力事業者分析のポイント	175
2) 大手電力事業者分析 (販売量、喪失率、財務情報、新プラン、他企業提携等)	179
1. 北海道電カグループ	180
2. 東北電カグループ	186
3. 東京電カグループ	194
4. 中部電カグループ	202
5. 北陸電カグループ	210
6. 関西電カグループ	217
7. 中国電カグループ	225
8. 四国電カグループ	231
9. 九州電カグループ	237
10. 沖縄電カグループ	245
3) 大手電力事業者の子会社分析 (販売電力量順)	253
1. テプコカスタマーサービス	257
2. 九電みらいエナジー	262
3. CDエナジーダイレクト	267
4. シナジアパワー	272
5. 関電エネルギーソリューション	277
6. エネルギア・ソリューション・アンド・サービス	282
4章 新規参入企業の動向	287
1) 新電力の新規参入状況	288
2) 新規参入企業の分析	290
5章 JEPX・インバランス分析	296
1) 2021年JEPX市況 (北海道・東京・関西・九州エリア)	296
2) 月間JEPXスポット市場分析 (北海道・東京・関西・九州エリア)	302
3) 月間インバランス確報値分析 (北海道・東京・関西・九州エリア)	363
4) JEPXベースロード市場分析 (北海道・東京・関西エリア)	388

6章 誌上講義 2022年3大制度レポート	392
1) 容量市場制度	392
1. 容量市場制度の基礎知識	393
2. 容量市場約定結果の分析	396
3. 容量市場制度への対応策	399
2) インバランス料金制度の改正	402
1. インバランス制度の基礎知識	403
2. インバランス制度改正の分析	406
3. インバランス制度への対応策	409
3) 再エネ価値取引市場	412
1. 再エネ価値取引市場の基礎知識	413
2. 再エネ価値取引市場約定結果の分析	416
3. 再エネ価値取引市場への対応策	419
7章 電力ビジネスコンサルコラム	420
1) 電力業界マイノリティ・レポート (対談①・電力事業経営者)	421
2) 電力業界マイノリティ・レポート (対談②・電源調達担当者)	426
3) 電力業界マイノリティ・レポート (対談③・需給管理担当者)	431
4) 電力業界マイノリティ・レポート (対談④・電力人財転職エージェント)	436
5) 電力業界マイノリティ・ディスカッション (2021年の総括)	441
後記 (2021年の総括と2022年以降の競争環境への所論)	450



- ✓ 第1章は2021年の「月間ニュース」と、注目ニュースの深掘りを行う「トピックス」で構成しています。
- ✓ トピックスは「序・破・結」で簡潔にトピックスを紹介し、未来の状況も考察しています。

1月 月間ニュース

日	曜	小売電気事業	発電事業
1	金	不穏な元旦... JEPX高騰続く	
2	土		
3	日		
4	月		
5	火		
6	水		広域機関、送配電事業者に余力底上げなど発電指示
7	木		
8	金		JERA・常陸那珂共同火力1号機（石炭65万kWUSC）が運開
9	土		
10	日		
11	月		
12	火	JEPX時間前市場で、過去最高値となる300円00銭の約定	
13	水		
14	木		エネ庁、FIP制度を開始する2022年度に、事業者にランニングコストとして1.0円/kWh付与する方針に
15	金	JEPX、全エリアにおいて史上最高値 東日本252.0円/kWh エネ庁、インバランス料金単価の上限を200円/kWhに	
16	土		
17	日		関西電力、大飯4号機（118万kW）が運転再開
18	月	Loopなど新電力55社が共同で、スポット市場価格の適正化などに向けた要望書を経済産業省に提出	
19	火	インバランス料金単価に上限設定を受け、19日受け渡し分は上限金額の200円/kWhに抑制された	
20	水		
21	木		
22	金	電ガス委、スポット市場における需給曲線を公開	
23	土	九州電力エリア、JEPX市場高騰終了	
24	日		
25	月	東京電力ほか、JEPX市場高騰終了	
26	火	楽天モバイル、市場状況の変化を受け、電気・ガス小売サービスの（個人・法人向け）新規受付を一時停止	
27	水		
28	木		
29	金	経産省、1月のインバランス料金について、最大5ヶ月の均等分割払いを可能とする特別措置を設けると発表	ENEOS、山形県尾花沢市で風力発電事業に参加すると発表。MULエナジー・インベストメントによる案件。最大出力1万7千kW
30	土		
31	日		

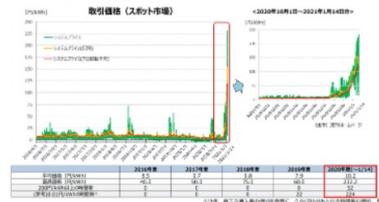
1月 注目トピックス 業界激震！！ JEPX市場最高騰

序1：JEPX極大高騰の発生

2020年12月15日から2021年1月25日（九州エリアは22日）にかけて、日本卸電力取引所（JEPX）は、2005年度の開設以来、類を見ないほど取引価格が高騰した。これまでのJEPXにおける取引価格は1kWhあたり10円以下で推移することが多く、猛暑のピーク時間帯でも50円ほどが高値と認識されていた。しかし、12月末から価格が200円を超える時間が続き、1月15日には252.0円にまで達した。電力市場はイギリス、北欧、アメリカなど世界各地に設立され、価格高騰は毎年、散発的に発生している。価格が高騰することは、それ自体は、市場が正常に機能していることの証でもある。しかし、2021年1月のJEPX高騰は、短期間の高騰ではなく、30日以上にわたった長期の高騰であった点が、極めて特殊であった。

これほど極端な価格と継続期間を予想することができた新電力は数えるほどしか存在せず、結果、新規需要家の受付停止、事業縮小、事業撤退まで余儀なくされた事業者もいるほどだ。

図1 JEPX約定価格の推移（2016年4月以降）



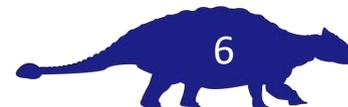
序2：JEPX高騰の要素に異常なし

JEPX高騰要因は、複数の要素が絡んでいるが、JEPXの高騰要因の枠を出るわけではない。つまり、需要の上昇、供給の減少あるいは供給単価の上昇、市場入札者の心理、の3つで説明がつく。まず、厳冬による電力需要の高まりだ。2020年12月下旬から1月上旬にかけて、数年に一度レベルの非常に強い寒気が流れ込み、暖房器具の使用量、使用時間が共に急増した。北海道電力エリアや東北電力エリアをはじめ、全国的に電力使用率90%という状況だった。供給の面では、コロナ禍などを要因にLNGの輸送が滞ったこと、LNGの価格上昇が主な要素だ。

そして、インバランス料金の高騰を警戒した事業者や、供給力確保義務を厳しく求められる大手新電力が、無理を承知で高値での買い入れを実行した。

その結果、毎日、JEPXの売り玉を巡って事業者同士が奪い合う格好になってしまった。なお、252円の値が付けられたコマのインバランス確報値は450円である。252円の判断は、異常な状況の中でも正しかったことになるのだ。

1年前の情報から未来の状況考察を行う「温故知新」的な章



- ✓ 第2章は、新電力事業者の動向を分析します。スイッチング、販売量
- ✓ 重要と思われる事実は「太字」で、分析的視点での考察は「赤字」で強調します。

年間販売量ランキング* (2020年9月～2021年10月末) *大手電力の子会社除く

2021年順位	新電力事業者名	年間販売電力量 (MWh)	前年比	既存事業 (グループ企業)	前年度順位	
1	エネット	14,387,077	125%	NTTグループ	東証一部 (親)	1
2	東京ガス	10,581,391	110%	都市ガス事業	東証一部	2
3	ENEOS	7,765,457	125%	石油事業	東証一部	3
4	大阪瓦斯	5,991,155	112%	都市ガス事業	東証一部	4
5	SBパワー	5,524,782	152%	通信事業	東証一部 (親)	7
6	KDDI	5,156,175	100%	通信事業	東証一部	5
7	F-Power	4,187,735	102%	独立系		6
8	出光興産	3,940,821	148%	石油事業	東証一部	11
9	丸紅新電力	3,581,677	96%	総合商社	東証一部 (親)	9
10	エナリス・パワー・マーケティング	3,420,366	96%	KDDIグループ	東証一部 (ゲ)	8
11	エバグリーン・マーケティング	3,197,270	181%	独立系	東証一部 (親)	15
12	ハルエネ	2,843,918	102%	通信代理店	東証一部 (親)	10
13	ホープ (ホープエナジー)	2,830,792	266%	自治体向け総合サービス	東証マザーズ	29
14	大和ハウス工業	2,180,866	193%	住宅総合メーカー	東証一部	25
15	ミツウロコグリーンエネルギー	2,151,572	116%	LPガス・石油製品	東証一部 (親)	14
16	オリックス	2,080,413	111%	総合金融サービス	東証一部	12
17	日本テクノ	1,964,022	145%	省エネサービス		18
18	東邦ガス	1,906,995	144%	都市ガス事業	東証一部	19
19	楽天エナジー	1,758,917	173%	都市ガス事業	東証一部 (親)	31
20	ウエスト電力	1,747,462	105%	太陽光発電事業者	JASDAQ (親)	16

新電力の販売量は、2020年10月から2021年9月の12カ月間で、約1684億5400万kWh。大手電力の販売量も合わせた日本全体の販売量は、約8274億6626万kWh。新電力の販売量は、**全体の20%程度の販売シェア**である。

販売電力量上位と下位の差が大きいことも特徴だ。2021年9月時点で、販売をしている新電力は582社で、そのうち**44社 (7.6%)**で、**販売量全体の80%を占める**。パレートの法則 (20:80) を大きく超えた比率である。

年間販売量上位20社中、18社が自身、もしくはグループ会社が上場会社で、ベンチャー事業者が上位に来ることは極めて珍しい。

上位新電力の中ではF-Power、日本テクノが該当する。

一般家庭向けの販売比率が高い新電力が、順調に販売量を増加させる一方、特別高圧・高圧需要家を積極的に獲得した新電力がJEPX高騰など調達単価の上昇を背景に成長が鈍化している印象だ。

コンサルタント的な視点を伝える「分析」の章

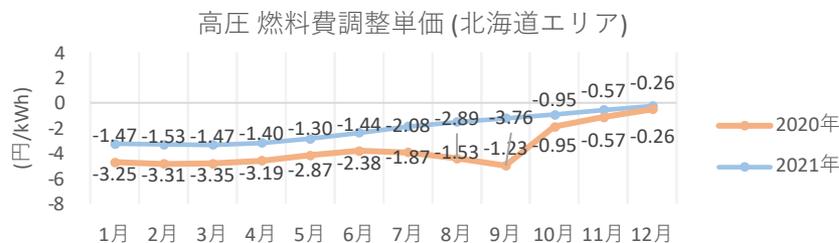
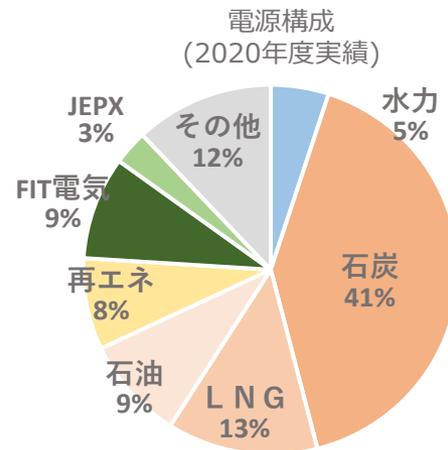


- ✓ 第3章は、大手電力事業者の基本情報や、2021年における活動情報を紹介します。
- ✓ 新たにリリースしたプラン、他企業との提携など大手電力の強力な巻き返し意欲が伝わってくる構成です。

大手電力事業者の事業者分析 (発電設備・電源実績・燃料調整費)

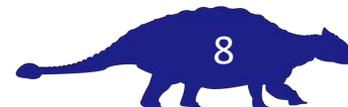
北海道電力グループ発電設備 (2021年10月時点)

発電設備(kW)	北海道電力	北海道電力ネットワーク	合計
水力発電	1,631,070	415	1,631,485
火力発電			
石炭	2,250,000	0	2,250,000
LNG	569,400	0	569,400
石油	1,798,000	16,710	1,814,710
LPG	0	0	0
その他ガス	0	0	0
歴青質混合物	0	0	0
その他	0	0	0
計	4,617,400	16,710	4,634,110
原子力発電	2,070,000	0	2,070,000
新エネルギー等発電			
風力	0	0	0
太陽光	1,000	0	1,000
地熱	25,000	0	25,000
バイオマス	0	0	0
廃棄物	0	0	0
計	26,000	0	26,000
その他	0	0	0
合計	8,344,470	17,125	8,361,595



※上記サンプルは、図表のイメージです。レポート本体には、解説文がついています。

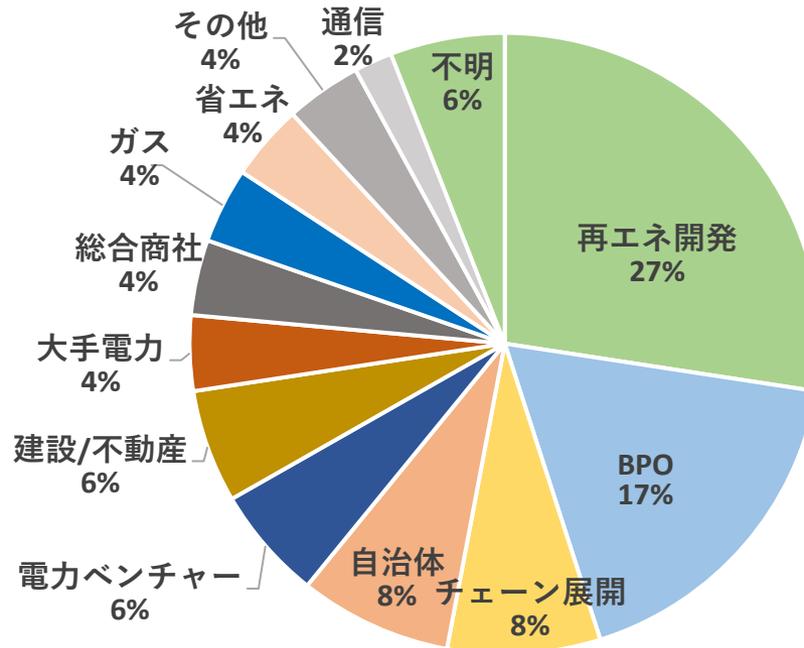
大手電力からの大波が透けて見える「考察」の章



- ✓ 第4章は、小売電気事業者ライセンスを取得した事業者の分析を行います。
- ✓ 主要な分野における事業者の参入動機や、成長戦略の可能性について考察します。

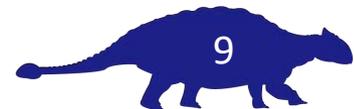
新規参入企業の分析

2021年新規参入者の分類



※上記サンプルは、図表のイメージです。レポート本体には、解説文がついています。

新規参入事業者の勝機と動機に迫る「新味」の章



- ✓ 第5章は、JEPXスポット市場・インバランスの約定結果を、独自指標を活用して分析します。
- ✓ 月ごとの気象状況などを整理し、市場価格の因果関係などを考察します。

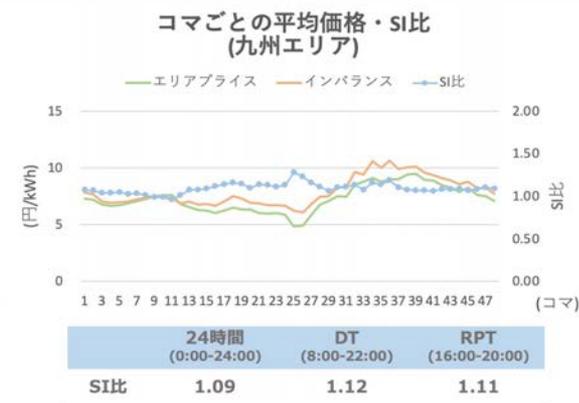
月間JEPXスポット市場分析



	時間帯別平均価格			
	24時間 (0:00-24:00)	DT (8:00-22:00)	PT (13:00-16:00)	RPT (16:00-20:00)
2020年6月	5.61	6.45	6.71	7.84
2021年6月	6.94	7.12	7.08	8.50
前年同月比	1.24	1.10	1.06	1.08



月間インバランス分析



- PB比率1.7。6月の北海道エリアは全体的に曇が多く、晴天が望めた日は限られた結果、5月までの極端に約定価格が低いコマの出現数は減少した。
- YoYは、1.24。朝、夜間の価格が2020年6月と比べて上昇しているため、10%程度しか上がっておらず、安価な価格が続いている印象だった。

- 西日本エリアのインバランス価格は、平均的にエリアプライスより5%程度高い価格にとどまった。
- 関西エリア、九州エリアは、全時間帯でSI比が1.0前後であり、極端な価格差は生じなかった。
- 西日本エリアは梅雨入りが早く、梅雨明けが遅いという「長梅雨」で、太陽光発電の導入量が特に少ない月であった。

インバランス分析など非FIT太陽光事業者「必見」の章



- ✓ 第6章は、2022年度に新電力業界に影響を与える制度について説明します。
- ✓ 「容量市場」「インバランス制度の改正」「再エネ価値取引市場」にスポットを当てました。

基礎知識

容量市場創設の背景

- 2012年以降 太陽光発電の増加**
 - 東日本震災後のエネルギーセキュリティの向上を目指し、日本は、以前より再エネを増やすようになった（FIT制度の導入）
 - 太陽光発電を中心に、再エネは順調に増加
- 2018年頃 問題の表面化**
 - 太陽光、風力発電など出力が不安定な発電所が多くなり、安定させるために、蓄電池や火力発電での調整が必要（だが、蓄電池は価格が高止まり）
 - JEPXの価格が、引き下げられ、火力の事業安定性に影響が出る事象に
- 将来 破滅的状況の予感**
 - 火力の新設、リプレースのモチベーションは下がる一方（ESG投資で火力への限責圧力はただでさえ強まっている）
 - 増やした再エネが仇となり、電力供給の安定性が崩壊するかもしれない

需給が不安定になり、電気代も高騰し、再エネも増えないという「三重苦」安定して発電できる発電所の収益を確保して、安定供給環境を整える仕組みが必要

日本の再生可能エネルギー導入量の推移

FIT制度開始以降、再エネ導入量6,136.2万kW!

分析

容量市場メインオークション約定結果 (2021年度・2021年度)

	2020年度 (対象開始年度:2024年)	2021年度 (対象開始年度:2025年)
約定総容量 (全国)	1億6,769万kW	1億6,534万kW
約定価格	全エリア: 14,137円/kW	北海道: 5,242円/kW 九州: 5,242円/kW その他: 3,495円/kW
約定総額 (超過削減量除後)	1兆5,987億円	5,140億円

影響として考えられること:

① JEPXは安くならない?? ② 火力発電廃止は増加??

全国の発電方式別の応札容量と比率

発電方式	比率
LNG	42.2%
石炭火力	23.9%
一般火力	7.6%
水力	13.1%
再生可能	9.2%
石油その他	5.0%

対応策

新電力の容量市場対応策

項目	内容	方策	新電力の対応・課題
需要平準化の需要調整	調達単価引下げ 相対競争力の向上	需要方針の根本的見直し 売上でよくなる利益を優先した施策	ほとんどのエリアで対応済 BG加盟企業次第でバランスを 乱す可能性もある
相対契約価格見直し交渉	調達単価引下げ 相対競争力の向上	全調達先への交渉申し入れ 新調達単価の情報把握	交渉で優位に立つための情報が必要
一般家庭需要の大規模獲得	販売単価の引上げ	家庭獲得戦略の確立	既に家庭需要が多い 需要家構成
再エネ電力など付加価値確保	販売単価の引上げ	再エネメニューの確立 RE方針の決定	自然でんきなどブランドあり
卸売売量の拡大	小売以外の売上確保	BG拡大の検討と実施	BG拡大方針 BG拡大速度が課題
DRの積極導入	容量削減金負担割合削減	DER対応方針の決定 DERアプリケーションとの連携交渉	家庭向けにDR実施 蓄電池、EVCにも取り組むべき

※上記サンプルは、図表のイメージです。レポート本体には、解説文がついています。

容量市場・インバランス・再エネ価値取引への「対応」の章



- ✓ 新電力業界に在籍経験のある「経営者」「電源調達担当」「需給管理担当」「転職エージェント」に匿名条件でインタビューを実施。現場のヴィヴィッドな声や、珠玉のマル秘資料（個人使用）を公開します。

電力業界マイノリティーレポート 対談③ 需給管理担当者



- ・元中堅新電力 電力需給管理部門
B氏（31歳）※以降、「備前氏」と仮称。
- ・大卒後、飲食店勤務、飲食店経営
- ・5年前に中堅新電力に入社。需給管理部門配属
需給管理経験5年。
- ・結婚し現在は退社。
ファッション系雑誌のコラムを自宅で執筆。

※淡々とした口調の中に、シニカルな雰囲気か混じるので表現を中性的なエッセンスに仕上げています。

memo pad

挨拶：「安定しない」需給管理業務経験の貴重性

ー 今回は需給管理の御経験と「理想のBG^①」というテーマについてお話をさせていただくために、お越しいただきました。

備前 よく考えたら、私で良いのかなと思ってて。4年と少ししか需給管理部門いなかったの、場違いじゃなかったか心配です。

ー 電源調達が安定していて、何も心配がない需給管理経験10年より、安定しない需給管理環境^②で4年の方が価値があると思っています。

備前 安定からは、かけ離れていましたね（笑）。わかりました。よろしくお願いします。

ー もちろん、需給管理環境が安定していることは素晴らしいことですが、危機意識や野生の勘は鍛えられず「作業的」になります。

備前 そうですね。経営層から現場まで修羅場と化す1日の経験値は、はぐれメタルみたい^③に

① バランシンググループ
(Balancing Group) の略

② 安定した需給管理環境
= 電源調達先が豊富、社内の需給管理への理解が十分
安定しない需給管理環境
= 電源調達先がJEPXのみ、需給管理への理解が不十分、
など、不安定要因は様々

③ ドラゴンクエストシリーズの経験値を大量に保有するモンスター。ドラゴン派らしい

B氏の需給管理業務時代の
需要予測シート、
分析シートなど
(サンプル未公開)

極めてユニークな電力人との本音での「対談」の章



- ✓ 「レポートを読み進めるのは時間がかかる」、「重要なポイントをサマッて欲しい」という声を受けて、全章の解説動画をお付けしています。当章の情報の見方、抑えておくべきポイントを説明します。

2021年1月のJEPX分析前提指標

(°C)	2021年1月		2020年1月		前年同月との差	
	日平均	日最低	日平均	日最低	日平均	日最低
札幌	-4.4	-8.2	-2.3	-5.3	-2.1	-2.9
仙台	1.2	-2.3	4.0	0.8	-2.8	-3.1
東京	5.4	1.3	7.1	3.7	-1.7	-2.4
名古屋	5.0	1.5	7.6	4.1	-2.6	-2.6
金沢	3.9	1.1	6.7	3.9	-2.8	-2.8
大阪	6.2	3.0	8.6	5.8	-2.4	-2.8
広島	5.2	1.7	8.1	4.9	-2.9	-3.2
高松	5.6	1.9	8.4	5.0	-2.8	-3.1
福岡	7.0	3.8	9.5	6.8	-2.5	-3.0
那覇	16.8	14.4	18.7	16.3	-1.9	-1.9

出所：気象庁過去天気データより作成



新電力業界の 未来視レポート Tele-Gnosis 2022

5章 JEPX・
インバランス分析

1) 2021年JEPX市況
(北海道・東京・
関西・九州エリア)



解説者：村谷 敬

	2021年1月	2020年12月	前月との差	前年同月
売り 入札量	28,426,862,450	31,516,025,550	-3,089,163,100	32,288,740,800
買い 入札量	36,242,309,300	36,695,590,550	-453,281,250	32,298,540,650
約定量	27,422,697,800	28,912,313,000	-1,489,615,200	26,793,527,300

単位：kWh

	2021年1月	24時間 (0:00-24:00)	DT (8:00-22:00)	RPT (13:00-20:00)	RPT (16:00-20:00)
買い 入札率	前半	140%	141%	135%	147%
	後半	117%	118%	113%	122%
約定率	前半	100%	100%	99%	100%
	後半	94%	94%	92%	95%

出所：JEPXスポット市場結果より作成

全章解説 動画再生時間「3時間」以上

CONFIDENTIAL

13

- ✓ 本レポート（解説動画）の一部を、モニターとして縁故ある新電力事業者様や金融機関様にお使いいただきました。その御意見を紹介させていただきます。

「業界分析の実務必携レポート」

電力業界は、情報が入ってくるのが遅くて前年の分析は今まで真剣にやってきませんでした。本レポートは、業界分析に必要な情報が、考察付き（動画まで）で入っているので分かりやすく、**今まで以上に分析するのが楽しくなった一冊**です。**辞書的な業界解説資料**でした

「イラストが多く、新人教育に最適な一冊」

レポートというと、活字が多くて平易な表現で「素人には読めない」ものだとばかり思っていました。私は電力業界で2年目の新人ですが、それでも**イラストが多く、用語解説や基礎知識が丁寧**なので、**新卒への教材**に良いと思います。

「コンサルタント、いや、"村谷不要"の作品だ」

各章ごとに執筆者が異なるので、考察や分析の切り口が多角的で良いと思いました。そこに動画で需給管理知識を基にした村谷氏独特の考察を「村谷節」で語られると、村谷氏の**コンサルティング**を**サブスクリプションで受けているのと同じ**雰囲気です。「**村谷氏要らず(?)**」の名作です。

「先物市場の分析」「自治体電力の分析」などご要望多数

※本レポートへの追加はできかねますが、将来的に対応いたします

商品仕様

新電力業界の未来視レポート Tele-Gnosis2022

発刊/配信日

2022年3月25日(予定)

製作

- ・村谷敬（執筆・編集）
- ・Anti-Pradatorエネルギービジネス研究会員（3名）

商品形態

- ・PDFデータ：体裁：A4 / 約456頁(予定)
- ・動画：解説動画再生時間約3時間(予定)

サービス価格

450,000円（税抜）

申し込み方法

当社ウェブサイトのお申し込みフォーム
<https://anpreenergy.co.jp/report/>

- * PDFデータは、印刷可能、編集不可。
- * 商品のお渡し後は、料金のお支払い確認後にメールにて、商品のダウンロードのご案内をお送りいたします。（発刊/配信日以降にお送りします。）

お問合せ先

株式会社AnPreenergy

〒105-0003

東京都港区西新橋一丁目2番9号 日比谷セントラルビル14階

TELL :03-5532-8043

E-mail : info@anpreenergy.com

CONFIDENTIAL

